



小平市の特別支援教育 (通常の学級における取組)

⑤保護者との協働 ……保護者に「つながり」と「あんしん」を

指導・支援による児童・生徒の変容

個別指導計画の目標を達成

学校生活支援シートに「成長の様子」と「来年度への引継」を追加し、次年度の学年・学校へ引継ぐ。

つながり 保護者へ あんしん

- 教員（学校）と保護者を「つなぐ」
- 必要な指導や支援の手だてを「つなぐ」
- 児童・生徒及び保護者の思いや願いを「つなぐ」
- 児童・生徒に関わる人と人とを「つなぐ」

保護者は、我が子の支援に必要な内容が、「送る側」から「受ける側」に確実に引継がれたことを知ることで、安心することができる。

保護者との協働を目指して

- 保護者と信頼関係を築く
- 保護者の想いを受けとめる
- 保護者に指導の様子を伝える
- 保護者と同じ目標で取り組む

特別支援教室や通級指導学級で指導を受けている児童・生徒がクラスにいる場合・・・巡回指導教員との連携

担任等

学級や教科での指導

- ・一斉指導の中での個別の対応
- ・教室の環境整備
- ・保護者との連携

特別支援教育
コーディネーター
特別支援教室専門員

連携

巡回指導教員等

特別支援教室等での指導

- ・個別指導、グループ指導
- ・児童・生徒の発達上の困難さに応じた指導
- ・在籍学級担任への助言・支援

- ・在籍学級や特別支援教室等の様子を、相互に伝え合うなどの情報交換を行きましょう。
- ・在籍学級と特別支援教室等が、目標や手立て、評価項目を共有して指導を行きましょう。
- ・特別支援教室等の退級を目指し、特別支援教室等の指導方法を在籍学級に取り入れましょう。

これだけは知っておきたい …… 特別支援教育関連用語

合理的配慮

障がいのある人が生活上で妨げとなる社会的障壁を解消するために、状況に応じて提供される負担になり過ぎない範囲の必要な配慮です。合理的配慮を求められた場合は、過度の負担のない範囲で配慮の提供に応じます。

交流及び共同学習

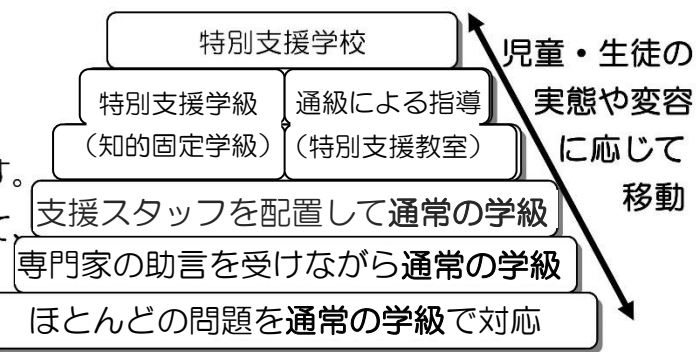
障がいのある児童・生徒と障がいのない児童・生徒が可能な限り共に学びあう共生社会の実現を目指し、特別支援学級や特別支援学校の児童・生徒とともに学習や交流を行う活動です。

副籍制度

都立特別支援学校の小・中学部に在籍する児童・生徒が、居住する地域の区市町村立小学校に副次的な籍をもち、直接的な交流や間接的な交流を通じて、居住する地域とのつながりを維持・継続する制度です。

連続性のある多様な学び

特別な支援を必要とする児童・生徒にはその時点で最も確かな支援の提供が必要です。多様で柔軟な連続性のある学びの場として、通常の学級においても特別支援教育に取り組んでいきましょう。



通常の学級におけるどの子どもにも分かる授業づくり

こだいらの小・中連携教育「こだいら共通プログラム」
特別支援教育の推進『こだいらこれだけは』

①子どもが見通しをもてる授業展開

ホワイトボードなどを活用し、1時間の授業の流れや活動の手順、注意事項等を事前に示す。

②情報刺激の少ない教育環境づくり

黒板は全面使用できる状況にする。教室（特に黒板まわり）の掲示物を精選する。

③時間の感覚を視覚・聴覚などで提示（小学校）

作業や考える時間を事前に示す。視覚的に時間が減っていくことが分かるタイマーや聴覚的に時間が分かるキッチンタイマーなどを活用する。

④子どもにとって分かりやすく、見やすい配布物（中学校）

注意事項や指示を分かりやすく記載する。配布物のレイアウトを見やすくする。



ホワイトボードとタイマーの活用風景

※特別支援学級・特別支援教室では、さらに個別の支援や配慮が必要

特別な支援を必要とする児童・生徒がクラスにいる場合

詳しくは2ページへ

特別支援教室や通級指導学級で指導を受けている児童・生徒がクラスにいる場合

詳しくは4ページへ

小平市教育委員会 指導課

特別な支援を必要とする児童・生徒がクラスにいる場合

①実態把握 …… 気づきと記録で子どもの特性を読み解こう

学級に教育上特別な支援を必要とする児童・生徒がいることを常に想定し、学校組織を活用し、児童・生徒のつまずきの早期発見に努めるとともに、行動の背景を正しく理解していきましょう。

<ポイント 1> 気づき

児童・生徒が示す様々なサインに気付くことや、そのサインを見逃さないことが大切です。

例えば ○学習面や行動面からの気づき

- ・文字をよく書き間違える
- ・特定の事柄に注意が向き、私語が多くなったり気が散ったりしてしまう
- ・複数のことを同時に行うことが難しい
- ・友達とコミュニケーションがうまくいかない
- ・おとなしく座っているが、教科書が同じページのまま動かない
- ・特定の領域のテストで点数がとれない

○児童・生徒が困っている状況からの気づき

- ・教科書を読む時に、行をとばしたり、単語を言い換えたりして読む
- ・ノートを書く時に、他の児童・生徒と比べてとても時間がかかる

○指導上の困難からの気づき

- ・順番が待てずに、他の児童・生徒の学習の邪魔をしてしまう
- ・授業中、たびたび座席を離れて立ち歩く

○保護者との相談からの気づき

- ・次々と物を出してしまい、部屋中がちらかりっぱなしで片付かない
- ・翌日の学習の準備が難しく、何でも鞆に詰め込んでしまう



<ポイント 2> 記録

他の児童・生徒と比べて「頻度が多い、程度が重い、継続性がある」と感じた場合は、項目や原因を考えるなどの工夫をして、行動の記録をとりましょう。



行動と結果から原因を考える

原因	行動	結果
学習内容に見通しがもてない	授業中に歩きまわる	教室中が落ち着かなくなる

原因をたくさん考えることで、児童・生徒の特性を読み解くことができます。

記録の項目

- 「いつ」「どこで」「どのような時」
- 「どんな問題が起こるか」
- 「上手くいっているときはどんな時か」

②校内委員会 …… 学校全体で情報共有と共通理解

※発達障がいのある児童・生徒への支援のレベル

特別な支援が必要な児童・生徒について、担任、特別支援教育コーディネーター、管理職、関係教員が支援内容について情報共有し、支援のレベル（※）と支援方法を協議して、共通理解を図ります。

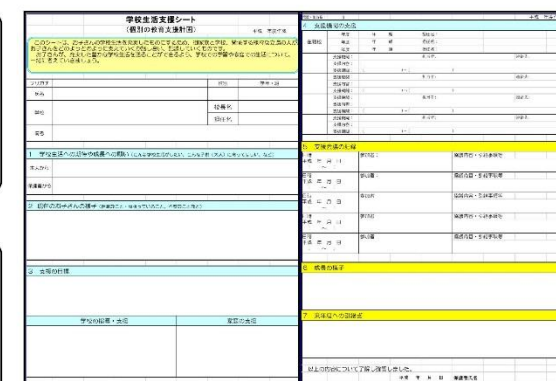
レベル1	巡回指導教員や心理士等の助言に基づく、学級担任の指導方法の工夫等により、困難さへの対応が可能
レベル2	校内・校外の人的資源等を活用することにより、困難さへの対応が可能
レベル3	特別支援教室での特別な指導が必要

→ 担任一人で抱え込まずに、組織で対応しましょう。

③計画の作成 …… チームで連携して支援・指導計画を立案

学校生活支援シート（担任が作成）

本人や保護者の希望（保護者の了解が必要）を踏まえて、関係機関と連携して、乳幼児期から学校卒業後までの一貫性のある支援を行う長期的な基本計画



学校生活支援シート書式（市内共用フォルダ）

個別指導計画（担任が作成）

「学校生活支援シート」を踏まえて、より具体的に学習面・生活面の指導目標や指導内容、方法等を盛り込んだ短期的な実行計画

特別支援教育コーディネーターや巡回指導教員等と連携して、管理職や外部専門家の支援を受けながら、学校全体で作成し、校長が確認をします。

詳しくは市内共用フォルダ「学校生活支援シート・個別指導計画（小平市統一書式）」を御覧ください。

④指導・支援 …… 分かる授業作りと個に応じた指導

学校生活支援シートや個別指導計画に基づいて、学級経営と環境整備を基盤として、児童・生徒の発達の特性に応じた、個に応じた指導を全体指導及び個別指導の中で行っていきます。

学級経営

互いのよさを認め合い、大切にできる温かい学級

障がい理解
教育の推進

多様性を受け入れる
心情や態度を育む

担任自身が、支援の必要な児童・生徒への関わり方の手本を示しながら、周囲の児童・生徒の理解を促す。

環境整備

- 授業のねらいと内容を明確にし、めあてや学習の流れを板書やその他の方法で視覚化する。
- 授業の開始、終了時刻を事前に伝える。
- 教室内の視覚・聴覚刺激を調整する。
- 発表のルールを明示するなど、話し方や聴き方を提示する。
- 教室内の座席配置や設営を工夫する。

1ページ「こだいらこれだけは」もご覧ください

個に応じた指導の例

- ・「板書を写すのが苦手」 → 板書の内容を記憶するのが苦手？
⇒ 板書の文字を少なくする 聞く時間と書く時間を分ける
- ・「読むことが苦手」 → 文字の見え方に特性？
⇒ 1行ずつ目に留まるような工夫をする
- ・「座っている姿勢がよくない」 → 筋肉や関節の調整が困難？
⇒ 背中を手を組む姿勢をとらせ、姿勢の崩れを自覚させる
- ・「授業の妨害をする」 → 注目を引きたい？
⇒ みんなの前で誉める場面を増やす
- ・「当番活動するのが難しい」 → 何をどのようにすれば良いかわからない？
⇒ 仕事の手順を示す 簡単な作業から取り組ませる
- ・「ぼんやりしがちである」 → 指示の理解が難しい？
⇒ こまめに言葉をかける 質問は答えを限定できるものにする（例：いつ、何、どこ）

